



第94号
 (発行所)
 真宗大谷派 廣讚寺
 松岡山中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341
 携帯 090-1568-4623
 (E-mail)
 matsuoaka@kosanji.or.jp

坊さん漫才「えしんりよう」より

隨縁寺 副住職 土井恵信 えしん

廣讚寺報恩講の方、お招き頂き本当にありがとうございます
 ございました。坊さん漫才は元々説法の先生の前座とし
 て始めたものでした。それがまさか報恩講に呼んで頂
 けるなんて！

お寺へ足を運んで頂くキツカケの一つになれば！

楽しい法話！何よりも楽しむ法話を目指して頑張つて
 いきます。また皆様にお会いできる日を楽しみにして
 います。

僕らも本当に楽しい時間を過ごす事が出来ました！

坊さん漫才師として活動をしていますと色々な出会
 いがあります。今回もまた一つうれしい出会いがあり
 ました。今年5月に東別院で行われた子ども広場で来
 てくださったお子さんがまた遠路はるばる会いに来て
 くれました。

養蓮寺 副住職 中村亮 りよう

これからどうし
 ていこうか悩むこ
 とばかりですが、
 こんな素敵なこと
 があると、やって
 いて本当に良かつ
 たなと心から思い
 ます。またご縁が
 ありますよう、こ
 れからもよろしく
 お願いします。



廣讚寺様の報恩講話で「元服」という作文を紹介しました。東井義雄さんの本にある、高校受験の入試に落ちた15歳の中学生の作文ですが、素晴らしい内容なので、廣讚寺ジャーナルの読者の皆様にも紹介したいと思います。

慈光寺副住職 伊藤教信

「元服」

僕は今年3月、担任の先生から奨められてA君と二人で〇〇高校を受験した。〇〇高校は私立であるが、全国の優等生が集まってきているいわゆる有名高校である。担任の先生から君たち二人なら絶対大丈夫だと思うと、強くすすめられたのである。

僕らは得意であった。父母も喜んでくれた。先生や父母の期待を裏切ってはならないと、僕は猛烈に勉強した。

ところが、その入試でA君は期待通りパスしたが、僕は落ちてしまった。得意の絶頂から奈落の底へ落ちてしまったのだ。

何回かの実力テストではいつも僕が一番でA君がそれに続いていた。それなのにその僕が落ちてA君が通ったのだ。成績の下の方が通ってしまったのです。

誰の顔も見たくない。みじめな思い。自分の部屋に閉じこもっている僕のために父母が僕の好きなものを運んでくれても、優しい言葉をかけてくれても、それがみんな余計にしゃくにさわった。何もかも叩き壊し、引きちぎってやりたい怒りに燃えながら、布団の上に横たわっている時、母が入ってきた。

「Aさんが来て下さったよ。」と。

僕は言った。

「母さん、僕は誰の顔も見たくないんだ。特に世界中

で見たくない顔があるんだ。世界中で一番憎い顔があるんだ。誰の顔か言わなくなっちゃってわかってるんだらう。帰ってもらってくれ。」母は言った。

「せっかく来て下さっているのに、母さんにはそんなこと言えないよ。あんたたちの友達関係ってそんなに薄情なものなの。ちよつと間違えば敵・味方になってしまうような薄っぺらなものなの。母さんにはAさんを追い帰すなんてできないよ。いやならいやでそっぽをむいていなさいよ。そしたらお帰りになるだろうか。」

と言っておいて母は出て行った。

入試に落ちたこのみじめさを、僕を追いこしたことはない者に見下される。こんな屈辱であるのだろうかと思うと、気が狂いそうになった。

二階に上がってくる足音が聞こえる。布団をかぶって寝ている。こんなみじめな姿なんて見せられるか。胸を張って見据えてやろうと僕は起き上がった。

戸が開いた。

中学の三年間A君がいつも着ていたよれよれの服のA君。涙を一杯ためたA君が、くしゃくしゃ顔で、

「B君、僕だけが通ってしまったってごめんね……。」
やつとそれだけ言ったかと思うと、両手で顔をおおい、駆けるようにして階段を降りていった。

僕は恥ずかしさで一杯になってしまった。思い上がっていた僕。いつもA君になんか負けないぞと、A君を見下していた僕。この僕が合格して、A君が落ちたとして、僕はA君を訪ねて僕だけが通ってしまったごめんねと泣いてなぐさめに行っただろうか。ざまあみ

ると、余計に思い上がったにちがいない自分に気がつくど、こんな僕なんか落ちるのが当然だったと気がついた。彼とは人間のできが違うと気がついた。通っていたらどんな恐ろしい独りよがりの思い上がった人間になってしまったところだろう。落ちるのが当然だった。落ちて良かった。本当の人間にするために天が僕をおとしてくれたのだと思うと、悲しいけれども、この悲しみを大切に出なおすぞと、決意したいなものがわいてくるのを感じた。

僕は今まで思うようになることだけが幸福だと考えていたが、A君のおかげで思うようにならないことの方が、人生にとって、もっと大事なことなんだということを知った。

昔の人は15歳で元服したという。僕も入試に落ちたおかげで元服できた気がする。



ところで、昨年十一月の廣讚寺ジャーナルで私が書いた敬老の話の中で、成長と成熟の違いとは何だろうと書きましたが、私はその答えがこの作文に示されているのではないかと思います。

易きにつく

釋綽智

年の瀬には、あちこちの寺で報恩講が営まれます。

そのため早くから門徒は、仏具のおみがき、お斎の準備やお華束、仏華を作るお手伝いをします。この時の会話が一番楽しく勉強になります。

報恩講のお勤めは近くのお寺さんも出仕され厳肅に執り行われます。最後に文類偈を唱和して御文が終わると説教師の法話が始まります。

報恩講の法話はだいたいが親鸞聖人のことが多いようです。私は誰のご恩に報謝するのか、ばくぜんとお釈迦様か七高僧なのかと思っていました。やっとな親鸞聖人の遺徳をしのぶお勤めだと知りました。

講師にはこの法話のためにいろいろと準備をなされたと思います。午前中は法話の内容が半分で終わりますので、お斎の食べたあと、午後のお勤めが始まると

めつきり参詣者が減り、さらに法話が始まるころには二十名ほどになってしまいます。

聞法は今の自分発見の最良の場と思います。皆さんご自信があるのでしょうか。もったいないなと・・・これがお寺の行事の定番ですので講師もお慣れになつてみえるのでしょうか。いやな顔もされず、淡々と法話を続けられました。しかし、ふと思うに説教師が自分だったらどうでしょう。頭にきて法話の内容を値切ってしまうかもしれません、きちんと法話をなされていきました。もったいない、少し講師には失礼じゃないかと思ひ、まあ、最後まで聞法をしていただきたいものです。それと説教師の方もひと工夫していただければ、こんな悩みを言わなくてすむかもしれません。

近頃、法話を聞いていてつくづく嘆きを感じています。これならば法話は午前だけで、午後はゆつくり全員で正信偈を唱和して終わってみてはいかがでしょう。お斎のあとの説教は難行でしょうか。

廣讚寺年間行事予定

定例行事

〈毎月〉

第2土曜

19時30分 同朋会

(月によって時間がかわる場合あり)

〈毎月〉

19日

14時

学習会

1月

1日(祝)

10時 修正会

3月

20日(祝)

10時 彼岸永代経

(午前、勤行・法話・お斎)

(午後、勤行・法話)

21日(月)

15時 彼岸勤行・法話

22日(火)

15時 彼岸勤行・法話

23日(水)

10時 女人講・報恩講

(勤行・法話・お斎)

28日(月)

10時 二十八日講総会

(勤行・法話・お斎)



4月

2日(土)

14時 常任委員会

17日(日)

同朋会旅行

28日(木)

10時 おみがき

5月

5日(祝)

10時 復興永代経

(午前、勤行・法話・お斎)

(午後、勤行・法話)

7月

24日(日)

18時 納涼大会

(勤行後、屋台、人形劇、ビンゴゲームなど)

8月

4日(木)

14時 常任委員会

9月

11日(日)

8時 境内大掃除 (掃除後お斎)

22日(祝)

10時 彼岸永代経

(午前、勤行・法話・お斎)
(午後、勤行・法話)



12月

2日(金) 9時 報恩講準備 (お齋後勤行)
3日(土) 10時 報恩講
(午前、勤行・法話・お齋)
(午後、勤行・御伝紗拝聴)

4日(日) 12時 報恩講
(午前、勤行・法話・お齋)
(午後、勤行・法話・演芸会)

31日(土) 23時半～1時 初鐘

11月

4日(金) 14時 常任委員会
28日(月) 10時 おみがき

23日(金) 15時 彼岸勤行・法話
24日(土) 15時 彼岸勤行・法話
25日(日) 15時 彼岸勤行・法話
28日(水) 10時 二十八日講総会
(勤行・法話・お齋)



真宗大谷派名古屋教区・名古屋別院

宗祖親鸞聖人750回 御遠忌法要

ともに生きる ーいのちのつながりー

2016年4月22日(金)～4月24日(日)
4月26日(火)～5月1日(日)

宗祖親鸞聖人 750回御遠忌法要

ナゴヤごえんきキャラクター 蓮ちゃん

ナゴヤごえんきキャラクター オケノマくん

ナゴヤごえんきキャラクター ミツる 千鶴ちゃん

廣讚寺団体参拝は4月26日

予約制につき、参拝希望の方は廣讚寺まで申し込みください。

平成28年(2016年) 年回表

| 年 回 | 年回にあたる没年 |
|-------|---------------|
| 一周忌 | 平成27年 (2015年) |
| 三回忌 | 平成26年 (2014年) |
| 七回忌 | 平成22年 (2010年) |
| 十三回忌 | 平成16年 (2004年) |
| 十七回忌 | 平成12年 (2000年) |
| 二十三回忌 | 平成 6年 (1994年) |
| 二十七回忌 | 平成 2年 (1990年) |
| 三十三回忌 | 昭和59年 (1984年) |
| 三十七回忌 | 昭和55年 (1980年) |
| 四十三回忌 | 昭和49年 (1974年) |
| 四十七回忌 | 昭和45年 (1970年) |
| 五十回忌 | 昭和42年 (1967年) |

行事予定

一月一日(祝) 十時 修正会

九日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)

十九日(火) 二時～四時 学習会

二十八日(木) 十時 二十八日講・女人講

二月十三日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は七時)

十九日(金) 二時～四時 学習会

二十八日(日) 十時 二十八日講・女人講

【20組行事】ご命日の集い

法話・新年懇親会

一月二十三日(土) 午後四時～七時

会場 なごや花亭 美よし

講師 伊藤耕先生

参加費 四〇〇〇円(当日集金)

※参加希望の方は寺まで

「東別院宗祖七百五十回忌法要

廣讚寺団体参拝のご案内」

四月二十六日(火) 御逮夜法要

(別院本堂はイス席になっており完全指定席となっております)
※参拝ご希望の方は廣讚寺まで連絡ください